

2026年度③

民 法

(全 3 ページ)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5. 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰りなさい。

民法③

I 下記についてそれぞれ 80 字以内で説明しなさい。(各 10 点)

- (1) 胎児の権利能力
- (2) 物権の絶対性と債権の相対性

II 次の問題〔1〕または〔2〕のうち、1 問を選択して解答しなさい。(100 点)

〔1〕 次の事例につき、下記の間へ答えなさい。それぞれの間は独立したものである。(100 点)

1. A は、自己所有の土地甲（時価 3000 万円前後）を売りたいと思い、友人 B に「買主候補者を探してくれ。候補者が見つければ面談して売るかどうかを決める。君には売る場合の登記申請の手続を手伝って欲しい。」と述べて、移転登記に必要な書類や印鑑を B に渡した。
2. B は、候補者を探したがなかなか見つからず、A から依頼を受けた 2 ヶ月後にようやく 2500 万円で購入するという C を見つけた。B は、A に C のことを報告した。思っていた価格よりかなり安かったので、A は C との面談には及ばなかったが、B には良い人を見つけてくれて感謝する旨の連絡をした。
3. B は、A が C に甲を売る意思であると思い、A の代理人として C との間で甲を 2500 万円で売る契約を結んだ。C は B が A の代理人だと信じていた。
4. B の契約締結行為の直後、A は、甲を 2800 万円を買っても良いという D を自分で見つけ出し、D との間で売買契約を結んだうえで、B に交付した書類や印鑑の返還を求めた。慌てた B は、すでに C に売る契約を結んでしまっており、C から責任を問われると困ると述べて、書類や印鑑の返還を拒んだ。

(問 1)

C が A に 2500 万円を小切手で提供して移転登記手続をするように求めてきた場合、A は C の請求を拒めるか。

(40 点)

(問2)

仮にAがCに対してBの代理した契約を追認する場合、CとDは、どちらが甲の所有権を取得することができるのか。

(20点)

(問3)

仮にAがCに対してBのした契約の追認を拒絶する場合、Cは、Bの責任を追及することができるか。

(40点)

[2] 次の文章を読んで各問に答えなさい。なお、それぞれの問は独立したものである。

1. 2025年10月1日、Aは自社工場で5年間使用していた部品製造機械(以下「甲」という)をBに300万円で売却する契約を締結した。甲は、同月10日にBに引き渡され、代金は同月24日を限りとして支払われることになっていた(この代金債権を以下「乙」という)。そして、乙について、Cが連帯保証人となった。
2. 同月20日、Aは、乙をDに譲渡し、その通知が内容証明郵便で22日にBに到達した。

(問1)

10月27日、DはBに300万円の支払を求めたが、10月はBの資金繰りが悪くなっており、1か月支払を待ってほしいと言われた。そこで、DはCに対して300万円の支払を請求した。Cはこれに応じなければならないか。

(20点)

(問2)

10月14日、Bが甲を使用してみると、甲には当初Aから説明を受けていた部品製造精度がないことが判明した。同日中に、Bは、測定結果を示してAに説明し、原因の究明と必要な修理を求めた。

しかし、Aは資金繰りが悪化しており、Bの要求に応えることができないでいた。

10月27日、BはDから300万円を支払うよう請求を受けたが、支払わなければならぬか。

(40点)

(問3)

Aは、10月21日、Eにも乙を譲渡し、その通知が内容証明郵便で翌22日に、Dへの譲渡通知と同時に、Bに到達していた。Bは、譲渡通知が2通同時に届いたため、乙の債権者不確知を理由として300万円を法務局に供託した。Dは、供託金全額の還付請求をできるか。

(40点)